

伝説

を知る

福島県山中の川では木くずを投げたら
ウグイに変身したという伝説がある



❖ 言い伝えの中にある真実 ❖

魚には様々な伝説があります。これは、昔の人々が、自然に対しておそれと尊敬の気持ちを持ち、何より自然を身近に感じていたからでしょう。伝説には、その魚の持つ特徴や生活史、人との

関わりが色濃く現れています。

ここでは、福岡イト子さんの「アイヌ植物誌」（草風館 1995）から、ヤナギの葉が魚になったという物語を引用・紹介します。

〈 日高地方のススハムチェ（ヤナギ・葉・魚＝シシヤモ）の伝説 〉

一番上の天にいる雷神の妹が退屈して、シシム力（沙流川）の水源にある神山に降りてあたりを見渡していた。ところが、川下のコタンの家々からは煙が上がっていない。よくよく様子をうかがい、耳をすましていると、食べ物がなくなっているという人間のひそひそ話が聞こえてきた。どうやら神々がうっかりして、このコタンに気づかなかつたらしい。

そこで、妹神は、天上の神々に向かって「フッホー」と、大声で危急を告げた。その叫び声が、天上の神の国であるススランベツ（ヤナギ・降りる・川）辺りに達したので、神の国ではびっくりして、一番足の早い梟の女神にいつけ、ヤナギの枝を杖に食料の魂を背負わせ、地上へ降ろした。

さて、それをどこの川へ流そうかと神々と相談したところ、沙流川（シシム力）は水がきれいだが男川で流れが荒いから、女川の鶴川におろしたほうがいだろうというので、梟の女神が杖にできたヤナギの枝の葉と、魂と一緒に鶴川に流した。そして、その管理を沖の老神にまかせ、川口の神と入江の神にも支配させた。人間にもそのことを知らせたので、コタンの人たちは飢えから救われた。

一方、天の神々はそれを見ていたが、どうも魚の数がおろした数よりも少ないので、雷神にいつけて調べさせたところ、梟の女神が天から降りたとき、その飛び方があまりにも早かったため、ヤナギの枝の半分が風にあらわれて、途中、八雲の遊楽部川に落ちたが、魂がないために腐りかけているということがわかった。

そこで、雷神が、遊楽部川の川の神にいつけて、急いで神の魂（カムイラマツ）を入れたので、この川にも柳葉魚（シシヤモ）がはいるようになった。（鶴川汐見・新井田勝雄）

（「アイヌ植物誌」福岡イト子 著 草風館 1995 より）

摩周湖には巨大なアメマス（チポルケソ、トクシシ）のアイヌ伝説もあります。「摩周の郷ガイド」（摩周川湯両観光協会連絡協議会 1997）より引用・紹介します。

むかし、摩周湖に大きなアメマスが住んでいた。

このアメマスが湖畔に水を飲みにきた鹿を丸呑みにしたところ、その鹿の角がアメマスの腹に刺さり、アメマスは死んでしまった。

ところがアメマスの死体は土の下をぐり、西別川上流にある湧水地に引っかかったため、摩周湖の水があふれそうになった。

そのことを鳥の神様であるカツコウが人々に知らせたので上の集落の人たちは感謝しながら逃げるのができた。ところが下の集落の人たちは神様の言うことを聞かず水源地に行き、大アメマスを見つけて大喜びをして引っぱった。

大アメマスがぬけると同時におそろしい勢いで噴き出した水のために、下の集落の人たちは全滅し、このときの洪水で広く平らな根釧原野ができた。（弟子カムイマ老伝）

（「摩周の郷ガイド」摩周川湯両観光協会連絡協議会 1997 より・一部改変）



アメマス（チポルケソ、トクシシ）